

# 第 4 学年国語科学習指導案

日 時 平成 17 年度 10 月 12 日 (水) 授業 1  
学 級 4 年 3 組 男子 21 名 女子 16 名 計 37 名  
場 所 4 年 3 組教室  
授業者 講師 堀合 葉子

1 単元名 場面を比べて読もう「一つの花」

2 単元について

## (1) 教材観

第 3 学年及び第 4 学年における「C 読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てることである。これを受けて本単元の目標を「場面の移り変わりや情景、登場人物の気持ちを叙述をもとに想像しながら読むことができる。」ことと設定した。叙述に即した視点をもった読み取りは、国語科の目標である国語を正確に理解する能力の育成において、最も大切なことであると考えます。

本教材は、厳しい戦争下での生活においても、ゆみ子とその家族が、人間にとって一番大切なものを忘れずにお互いを思いやり、いかに生きたかということが描かれている。父が子を思い、娘が父の願いを受けて育っていくという親子の愛を強く感じる作品である。また、繰り返し表現、対比表現、倒置法、比喻表現など、多様な表現が見られるので、これらをもとに言語感覚を養いながら豊かな読みの力を身に付けさせていきたい。

## (2) 児童観

第 4 学年「三つのお願い」では、場面ごとの登場人物の気持ちを声に出して表す学習をしている。「白いぼうし」では、色やにおいなど場面や情景を想像させる言葉を手がかりに読み、自分の感想をもつこと、感想の交流を通して友達との受け取り方に違いがあることに気付く学習をした。第 3 学年「ちいちゃんのかげおくり」では戦争が幼い子どもまで巻き込む悲惨さについて学習している。これらの学習を基に本単元では、戦争時代という場面を意識して家族の思いや状況について読み深める学習をしていきたい。

児童の読む力は、自分の考えをしっかりとったり、根拠となる文を明確にさせてから発表したりする児童が少しずつ増えてきている。しかし、登場人物の言動や情景描写に着目することはできても、場面や心情を想像して読み深めることができる児童は多いとは言えない。

また、文章の中の読めない漢字や意味の分からない言葉について自ら進んで調べる児童は少ないが、新出漢字の学習やテストに向けての漢字練習を熱心に行う児童が多いことから辞典を引き意味を調べる活動を取り入れ、習慣づけていくことで言語への関心を高めていきたい。

読書に関しては、本好きの児童が多く集中して読むことができる。しかし、興味のある分野に偏って選ぶことが多いので、いろいろな本を読もうという意識を高めていきたい。

## (3) 指導観

「まだ戦争がはげしかったころのことです。」と「それから、十年の年月がすぎました。」という時間の経過を意識して読んでいくことを大切にしたい。こういう時代が確かにあったということ認識の中で、平和の重みを実感し、平和を守っていく大切さに気付いていくような学習にしたい。

指導にあたっては、これまでに身に付けた力をふまえて、場面ごとのつながりや作品全体を通しての流れを理解できるようにすることや叙述に即した正しい読み取りが出来るようにすることを大切に指導していきたい。ひとり読みの活動ではキーワードをもとに書き込みを行うことで正しい読み取りにつながることを、学び合いでは一人ひとりの読み取りを交流することにより、自分の読み取りをさらに深め、自分の考えがまとめられるようにしていきたい。

### 3 単元の目標と評価規準

	目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	○場面や登場人物の様子を想像しながら読もうとする。	・場面や登場人物の様子を想像しながら読もうとしている。
読むこと	○登場人物や場面の様子を、作品の中の大事な言葉に気をつけて想像しながら読むことができる。 ○題名にこめられた作者の思いについて自分なりの考えをもち、友達の考えと比べることができる。	・場面の移り変わりを理解し、そのときの様子や父・母の気持ちを想像しながら読んでいる。 ・題名「一つの花」について自分の考えをもって読み取っている。
言語事項	○題名や作品のかぎになる言葉に着目し、作品全体とのかかわりを考えることができる。	・かぎとなる大事な言葉に着目し、作品全体とのかかわりを考えながら読んでいる。

### 4 単元の指導・評価計画（10時間扱い）

段階	時間	目標	主な活動 ○…学習課題 ☆…主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)	具体的評価規準		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て
					A: 十分満足できると判断する視点	B: 概ね満足できると判断する視点	
とらえる	1・2	「一つの花」の範読を聞いて大まかな粗筋をつかみ、学習の見通しをもつことができる。	○「一つの花」を読み、学習計画を立てよう。 ・新出漢字や難解語句に気を付けて「一つの花」の範読を聞く。 ・通読し大まかな内容をつかむ。 ・初発の感想を書く。 ・感想を発表し合い、学習課題を設定する。 ☆戦争の時代の物語であることを確認し、時代背景や家族の愛に着目しながら読ませる。	物語の粗筋を理解し、初発の感想を具体的に書き、意欲的に発表しようとする。 【関心・意欲・態度】 (観察・ノート)	心に残ったことやみんなで話したいことなどについて自分なりの感想をもち、進んで発表しようとしている。	初発の感想を自分なりの言葉で表現しようとしている。	友達の感想をもとにして、物語についてのイメージをもたせ、学習への意欲をもたせるようにする。
ふかめる	3・4	戦時下の生活の厳しさやその中でゆみ子をかかわりそうに思う母親の気持ちを読み取ることができる。	○ゆみ子が「一つだけちょうだい。」という言葉で最初に覚えたのはなぜだろう。 ・書きだしの文に注目し、感じたことを発表する。 ・戦争下の生活の様子を叙述をもとに読み取る。 ・ゆみ子に対する母の気持ちを考える。 ☆食べ物と町の様子に着目し、言葉を手がかりに当時の生活の厳しさを想像させる。	時代状況について書かれた文から、理由を読み取っている。 【読むこと】 (発言・ノート)	ゆみ子の生活状況について想像し、「一つだけちょうだい。」という言葉で最初に覚えた理由を豊かに読み取っている。	ゆみ子の生活状況について想像し、「一つだけちょうだい。」という言葉で最初に覚えた理由を読み取っている。	食べ物や町の様子、母親の言葉などの叙述に着目させるように助言する。
	5	父親の行動から、ゆみ子を心配する父親の気持ちを読み取ることができる。	○お父さんはどんな気持ちでゆみ子を高い高いしているのだろう。 ・両親の気持ちが分かるところに線を引き、思ったことを書き込む。 ・ゆみ子に対する父親の気持ちについて話し合う。 ☆父親の会話と「そんなとき、	父親の行動や会話文から、ゆみ子の将来を心配する両親の気持ちを想像している。 【読むこと】 (発言・ノート)	父親の会話文に着目して読み、ゆみ子を案じている気持ちについて豊かに想像し	父親の会話文に着目して読み、ゆみ子を案じている気持ちについて想像している。	ゆみ子に対する気持ちが分かる言葉を探し、父親の気持ちを想像するよう助言する。

		お父さんは決まって…」という文に着目させ、ゆみ子に対する父親の気持ちを想像させる。		ている。			
	6	戦争に行く父親と見送る母親とゆみ子の様子を読み取ることができる。	○お父さんを見送る母親とゆみ子はどんな気持ちだろう。 ・戦争の状況を読み取る。 ・ゆみ子の様子と母親の気持ちについて話し合う。 ☆駅でのゆみ子たち家族と、他の見送りの人々の様子を比させ、両親の気持ちをとらえさせる。	戦争に行く父親と見送る母親とゆみ子の様子を叙述から読み取っている。 【読むこと】 (発言・ノート)	ゆみ子や家族の様子と周囲の様子を想像を広げながら豊かに読み取っている。	ゆみ子や家族の様子と、周囲の様子を想像を広げながら読み取っている。	ゆみ子と家族の様子と周囲の様子との違いに気付かせ、想像を広げさせるようにする。
	7 本時	一つの花こめられた父親の気持ちを想像しながら読むことができる。	○お父さんは一つの花にどんな思いをこめたのだろう。 ・戦争に行く日のお父さんの様子とそのときの気持ちを考えてノートに書く。 ・何も言わずに、一つの花を見つめながら戦争に行ったお父さんの気持ちを話し合う。 ☆「一つだけ」に託した父親の思いをこれまでに出てきた言葉と関わらせて読み取らせる。	一輪のコスモスにこめられた父親の気持ちを想像している。 【読むこと】 (発言・ノート)	コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広げながら豊かに読み取っている。	コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広げながら読み取っている。	友達の手紙を参考に、自分なりの考えを持たせる
	8	戦中と戦後の場面对比させ、ゆみ子と母親のささやかで平和な生活の様子を読み取り、母親の気持ちを想像することができる。	○戦争から10年後のゆみ子はどんな生活をしているのだろう ・10年後の二人の暮らしぶりを読み取る。 ・母親の心の中を想像して、夫への手紙を書く。 ☆単に10年が過ぎ去ったのではなく戦後の苦しい生活の中で母親と娘が生き抜いたことを考えさせていく。	ゆみ子の10年後の様子を読み取っている。 【読むこと】 (発言・ノート)	戦争から10年後のゆみ子について想像を広げながら豊かに読み取っている。	ゆみ子の10年後の様子について想像を広げながら読み取っている	ゆみ子の言動に着目して、10年後のゆみ子について想像させる。
まとめる・ひろげる	9	「一つの花」で読み深めたこと、心に残っていることをまとめ、友達との感想の違いに気付くことができる。	○ゆみ子への手紙を書こう。 ・自分の読み深まりを確認して、ゆみ子への手紙を書く。 ・手紙を読み合い、感想を交流する。 ☆手紙には「一つの花」という題名の意味や、「一つ」という言葉についてもふれるようにさせる。	題名にこめられた作者の思いについて手紙に書き、友達との感想との違いに気付いている。 【読むこと】 (発言・手紙・感想カード)	自分なりの感想や作者の思いについて手紙に書き、友達との感想との違いに気付いている。	自分なりの感想をもち手紙に書き、友達との感想との違いに気付いている。	初発の感想を読み返したり、各場面で読み深めたことを確認したりして感想を書くように助言する。
チャ	10	戦争を題材にした物語を進んで読み、自分なりの感想を書くことができる。	○戦争当時の人々の様子を描いた作品を読もう。 ・戦争を題材にした物語を紹介する。 ・物語を読み、感想を書く。 ☆「一つの花」をきっかけに戦争当時の人々の様子を描いた作品に広く触れさせるようにする。	戦争当時の人々の様子について関心をもって読んでいく。 【関心・意欲・態度】 (観察・感想カード)	戦争当時の様子と自分たちの生活の様子を比べて読み、自分なりの感想をもっている。	戦争当時の様子について自分なりの感想をもっている。	「一つの花」や「ちいちゃんのかげおくり」を思い出させ、物語を紹介しながら本を選ばせる。

※チャ…チャレンジ学習

5 本時の指導（7 / 10）【モデル学習】

(1) 目標

一つの花にこめられた父親の思いを想像しながら読むことができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は、父親が自分の思いを託した一輪のコスモスの花をゆみ子に手渡し、去っていく場面である。叙述に即して人物の心の交流や場面の様子を想像しながら読み取らせるために、ひとり読みではそれらが表れている文にサイドラインを引かせたり、視写文に書き込ませたりし、正しい読み取りができるようにしたい。そして、発表し交流させることで、自分なりの読み取りが深くなるような学び合いをさせたいと考える。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料
とらえる5分	1 学習課題を確認する。  お父さんは、一つの花にどんな思いをこめたのだろう。	・前時までの学習を想起させ、学習課題を把握させる。	
たしかめる15分	2 課題解決のための見通しをもち、本時の学習範囲の確認をする。	・指名音読させる。 ・読みの視点を確認し、お父さんの言動を表す文に着目して黙読させる。	挿絵・紙板書
	3 学習課題を解決する。 (1) ゆみ子に一輪の花をあげて、戦争に旅立つお父さんの気持ちを想像する。	・各自黙読し、お父さんの気持ちが分かるところにサイドラインを引かせる。 ・机間指導を行い、ひとり読みでの児童の考えを把握する。 ・個別指導と一緒に本文を読み、お父さんの言動を確認しサイドラインを引かせる。 ・お父さんの言動を発表させ、確認してから板書とともにノートに視写させる。 ・「にっこり笑って」「何も言わずに」「一つの花を見つめながら」に着目させ、父親の気持ちを想像させ書き込ませる。	
35分	(2) 読み取ったことを交流する。 ・お父さんの気持ちについて、想像したことを発表し合う。 ・何も言わずに、一つの花を見つめながら戦争に行ったお父さんの気持ちを話し合う。 お父さんだと思って大事にするんだよ。 お母さんを大切にして、心の優しい子に育ててほしい。 たくさん食べられる時代になり、元気にたくましく育ててほしい。	・お父さんの気持ちについて、想像したことを発表させる。 ・指示語や一つの花という言葉に着目し話し合いを深めていく。 ・時代背景やコスモスのイメージと父親のゆみ子に対する気持ちをつなげられるようにする。 ・最後に「一つだけ」を選んだ父親の思いを前時までの父親の気持ちと比べながら想像させる。	
	(3) 読み取りを深める。 ・お父さんはなぜ最後に「一つだけ」を選んだのだろう。 [評価規準のBの例] 一つだけだからこそ大切な物があるんだよ。この花のようにたった一つの自分の命をいつまでも大事にして生きてほしい。	【評価規準】(読むこと) 一つの花にこめられた父親の気持ちを想像している。(発言・ノート)	
20分			

			<table border="1"> <tr> <td colspan="2">具体の評価規準》</td> <td>努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td rowspan="2">友達の言葉を参考に自分なりの考えを持たせる。</td> </tr> <tr> <td>コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広めながら豊かに読み取っている。</td> <td>コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広げながら読み取っている。</td> </tr> </table>	具体の評価規準》		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	A	B	友達の言葉を参考に自分なりの考えを持たせる。	コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広めながら豊かに読み取っている。	コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広げながら読み取っている。	
具体の評価規準》		努力を要すると判断された児童への具体的な手立て										
A	B	友達の言葉を参考に自分なりの考えを持たせる。										
コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広めながら豊かに読み取っている。	コスモスの花にこめられた父親の気持ちを想像を広げながら読み取っている。											
まとめる5分	<p>4 本時の学習範囲についてまとめの音読をする。</p> <p>5 本時の学習について自己評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名音読をさせ、本時の学習を振り返らせた。</li> <li>・本時の学習を振り返らせ、自己評価をさせる。</li> </ul>	自己評価カード									

(4) 板書計画

<p>「一つだけ」</p> <p>大切なもの</p> <p>命 家族</p> <p>ゆみ子の命</p> <p>お父さんの命</p>	<p>一つの花</p> <p>ゆみ子</p> <p>きやつきやと足をばたつかせて喜ぶ</p> <p>←</p> <p>お父さんは、それを見てにっこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗って行ってしまいました。ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら。</p>	<p>一つの花</p> <p>今西 祐行</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>お父さんは、一つの花にどんな思いをこめたのだろう。</p> </div>
---	--	--

6 教材分析表

<p>主 題</p>	<p>戦争という苛酷な状況におかれながらもゆみ子を愛情深く育てる両親とその思いを受け取り明るくけなげに生きるゆみ子の人間としての強さと美しさ。</p>				
<p>場 面</p>	<p>㊁ゆみ子が最初に覚えた言葉と世の中の様子</p>	<p>㊂ゆみ子に対する父母の嘆き</p>	<p>㊃戦争に見送りに行く父を見送りに行く母子。</p>	<p>㊄ゆみ子に一輪のコスモスを手渡し、去っていく父。</p>	<p>㊅10年後のゆみ子と母の様子</p>
<p>場 面 の 展 開</p>	<p>【戦争の激しかったところ】 ○「一つだけ」ゆみ子が最初に覚えた言葉 ○戦争の恐ろしさ ・食べ物がない ・敵が爆弾を落とす ・町が灰になる。 ○もともともと言っくだけでもほしがるゆみ子 ○「一つだけよ」母の口癖</p>	<p>○「一つだけちょうだい」と言えば何でももらえんと思ってるゆみ子。 ○ゆみ子の言葉に嘆く母。 ○ゆみ子の将来を案じ、めちやくちやに高い高いする父。</p>	<p>○戦争に行かなければならなくなった父。 ○見送りに行くゆみ子と母。 ○おにぎりをねだるゆみ子 ○ゆみ子を泣かすまいと気を配る母。 ○見送りもなく、戦争に行く人ではないようなゆみ子の父</p>	<p>○「一つだけ」と言ってなきだしたゆみ子 ○一輪のコスモスの花をゆみ子に与える父。 ○足をばたつかせて喜ぶゆみ子。 ○一つの花を見つめながら何も言わずにいっしてしまう父。</p>	<p>【戦争後】 ○父の顔を覚えていないゆみ子。 ○「お肉とお魚とどっちがいいの。」 ○スキップしながら買い物に行くゆみ子。 ○小さなお母さんになってお昼を作るゆみ子。 ○絶えずミシンを踏む母。</p>
<p>押 さ え た い 文 ・ 重 要 語 句</p>	<p>・「一つだけちょうだい」 ・そのころは…そんな物は ・おやつどころではありませんでした。 ・毎日、てきの飛行機が飛んできて、爆弾を落としていきました。 ・町は、次々に焼かれて、はいになっていきました。 ・もともともと言っくだけでもほしがるのでした。 ・「一つだけー。一つだけー。」 ・「一つだけよ。」</p>	<p>・「なんてかわいそうなの…なんでももらえんと思ってるのね。」 ・「この子は、一生、みんなちょうだい、……。」 ・お父さんは、決まってゆみ子をめちやくちやに高い高いするのでした。</p>	<p>・あまりじょうぶでないお父さんも、 ・お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子の泣き顔を見せたくなかつたのでしょうか。 ・ほかに見送りのない ・別の方からは勇ましい軍歌が聞こえてきました。 ・まるで戦争になんか行く人ではないかのように。</p>	<p>・プラットホームのはしっぽの、ごみ捨て場のような所に、忘れられたようにさいていたコスモスの花 ・「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだようー。」 ・お父さんはそれを見てにっこり笑うと、何も言わずに汽車に乗って行ってしまいました。一つの花をみつめながらー。 ・「一つだけ。」</p>	<p>・それから、十年の年月がすぎました。 ・ゆみ子はお父さんの顔を覚えていません。 ・コスモスの花でいっぱい包まれています。 ・ミシンの音 ・「母さん、お肉とお魚とどっちがいいの。」 ・コスモスのトンネル ・小さなお母さん</p>